

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成27年3月19日 (2015.3.19)

【公開番号】特開2013-154135(P2013-154135A)  
 【公開日】平成25年8月15日 (2013.8.15)  
 【年通号数】公開・登録公報2013-043  
 【出願番号】特願2012-19362(P2012-19362)  
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 8

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月29日 (2015.1.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技の主たる制御を行う主制御手段と、その主制御手段からの従制御信号に基づいて制御を行う従制御手段と、その従制御手段からの指示に基づいて演出を行う演出実行手段と、を備え、入賞役に当選すると遊技者が所定の遊技価値を獲得可能な入賞役遊技が実行される遊技機であって、

隣接して設けられた遊技機に対して赤外線通信により信号を送信する送信手段と、

前記隣接して設けられた遊技機から赤外線通信により送信される信号を受信する受信手段と、を備え、

前記従制御手段は、

前記従制御信号に基づいて行われる制御に関する情報を含む信号を、前記隣接して設けられた遊技機に対して送信するように、前記送信手段を制御する送信制御手段と、

前記受信手段によって前記隣接して設けられた遊技機より信号を受信した場合に、該信号と前記従制御信号とに基づいて、前記演出実行手段に所定の演出を実行させるよう指示を行う指示手段と、を備えることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記送信手段は、第 1 搬送波周波数で、隣接して設けられた遊技機に対して赤外線通信により信号を送信し、

前記受信手段は、前記隣接して設けられた遊技機から第 1 搬送波周波数とは異なる第 2 搬送波周波数で赤外線通信により送信される信号を受信することを特徴とする請求項 1 記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項2記載の遊技機は、請求項1記載の遊技機において、前記送信手段は、第1搬送波周波数で、隣接して設けられた遊技機に対して赤外線通信により信号を送信し、前記受信手段は、前記隣接して設けられた遊技機から第1搬送波周波数とは異なる第2搬送波周波数で赤外線通信により送信される信号を受信する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

請求項2記載の遊技機によれば、請求項1記載の遊技機の奏する効果に加え、次の効果を奏する。即ち、送信手段により、隣接して設けられた遊技機に対して第1搬送波周波数で赤外線通信により信号が送信される。また、隣接して設けられた遊技機から第1搬送波周波数とは異なる第2搬送波周波数で赤外線により送信された信号が、受信手段によって受信される。ここで、仮に、自機の受信手段が、隣接して設けられた遊技機から照射された赤外線を、その隣接して設けられた遊技機の受信手段に向けて反射させたとしても、反射された赤外線に含まれる信号の第2搬送波周波数は、自機が送信手段によって照射する赤外線に含まれる信号の第1搬送波周波数と異なるので、隣接して設けられた遊技機の受信手段が、反射された赤外線に含まれる信号を復調することはできない。よって、誤受信を抑制することができるという効果がある。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】